

特別講演抄録

MI (Minimal Intervention : 必要最小限の侵襲) の考え方に基づいたう蝕治療

桃井 保子

鶴見大学歯学部歯科保存学第一講座

う蝕の治療は高頻度であり、歯科治療の基本といえます。しかし、日常の臨床では、十分な根拠がないままに術者の経験や主観によって治療が行われる事が多く、歯の切削や修復が保険点数を意識して行われることさえあります。この事がもたらす臨床や教育現場の混乱を憂い、平成 21 年 10 月に日本歯科保存学会は、う蝕治療を必要とする患者が、患者を中心とした医療において安心して治療が受けられることを目的に、う蝕治療のガイドライン示しました。今回の講演では、1) 本ガイドラインの基本姿勢、2) 初発う蝕に対する診査・診断と切削介入の決定、3) 中等度の深さの象牙質う蝕におけるう蝕の除去範囲、4) 深在性う蝕における歯髄保護、露髄の可能性の高い深在性う蝕への対応（臨床的健康歯髄か可逆性歯髄炎の場合）、5) 臼歯部におけるコンポジットレジン修復の有用性、6) 補修（補修修復および再研磨）の有用性、7) 根面う蝕への対応、などについて解説しました。